

## 小田 桃花さん プロフィール

フリークライマー 山口県立大学在学

1994年 山口県生まれ

2008年 ワールドユース選手権  
(オーストラリア・シドニー大会)  
ユースB(16歳未満)優勝

2012年 IFSCワールドカップリード部門  
オーストリアイムスト大会 優勝

2013年 ワールドカップ日本女子S代表

山口県やがりの女性を紹介

# 人財彩時記

フリークライマー

おだ ももが  
小田 桃花さん

クライミングに挑戦する  
きっかけは何でしたか。

山口きらら博の時に初めて小さなクライミングウォールを経験しました。それが面白くて、両親に毎週のように連れて行ってもらいました。そうしているうちに山岳連盟の人に声をかけられて、本格的に取り組むようになりました。

両親はテニスをやっていたのですが、クライミングとは全く無縁です。私も走るのは遅いし、泳ぎは下手だし、運動は苦手でした。ただこのクライミングだけは違い、どんだんのめりこんでいきました。

初めて国際大会に出たのはいつでしたか。

一番初めにオーストリアで行われた合宿に参加して、翌年のオーストリアでの大会で年齢別で優勝できました。中学3年生の時です。それから何度も海外に遠征に行きました。今年はワールドカップ15戦に参戦しています。今、第9戦が終わったところで、大学の試験の日程と調整しながら遠征のスケジュールを立てています。

国際大会などでは緊張を強いられ、重荷に思うことはありますか。

大好きなクライミングができるので、きついとか辛いとか思ったことはありません。

目の前の課題に挑戦するだけです。大きな大会でも特別緊張することはありません。むしろ、見ているお客さんの拍手や声援が自分の後押ししてくれると感じて力が出ます。昨年は一度しか勝てなかったのですが、今年はもっと良い成績を取りたいです。

ワールドカップは一年の前半がボルダリング競技、後半がリード競技になります。ボルダリングは瞬発力が求められる競技で、言ってみれば短距離走のようなものです。一方リードは、6分間登り続けてその高さを競うもので、中長距離走と言えるかもしれません。冬場にボルダリング用のトレーニングをしてきたので、これから始まるリードの選手としては少し筋肉が付きすぎてしまいました。重力との戦いですが、体重は軽いほうが良いですからね。

大学生活と競技とのバランスは難しくありませんか。

自宅と大学と練習場を常に移動しているという感じです。クライミングができれば何も言うことはありません。週6

日間は練習場で使用時間ぎりぎりまで練習しています。辛いと思ったこともやめたいと思ったことも一度もありません。

それに合宿が好きなんです。いろいろなところに行けるし、いろんな選手と練習ができるので、とても楽しいです。

ここまでクライミングに

挑戦し続ける原動力はなんですか。

やはり、この競技が好きだということ。同時に、「勝ちたい」「世界一になりたい」という気持ちもあります。誰よりも高く登りたい。それが私の原動力になっています。

しなやかで静かなのですが、どんな大会でもびくともしない強靭な精神の持ち主。「あまり環境の変化に動じないところが長所」と笑って話してくれました。将来はクライミング関係の仕事ではなく、普通の仕事に就きたいと語る彼女です。しかし、その眼は世界一の座をしっかりと見据えていました。(取材：原田)